

●2023 (R5) 2. 24 「森吉山一帯の国立・国定公園昇格の推進について」

要望書提出に係る懇談概要

- ・4 団体(北秋田市山岳協会、NPO 森吉山ネイチャー協会、NPO 森吉山、NPO 森吉山四季美湖)連名による要望書を津谷市長に提出。
- ・要望書提出に至った経緯の説明
- ・国立・国定公園昇格になった場合の自然環境整備交付金活用の優位性について。
- ・新規6ヶ所の選定地域の自治体の動きを市長に情報提供。
- ・森吉山県立自然公園の拡張地域(案)を提案。
- ・公園区分は国定公園昇格とすべきことを申入れる。

<市長答弁>

- ・環境省発表の国立・国定拡張計画は、国際公約を待たずにもっと早く進めてほしかった。
- ・他の自治体の情報や、拡張地域についても具体的な提案を聴き今後の調査の課題も浮かび上がり参考になった。
- ・過去には十和田八幡平国立公園分割の話もあったようだが今回の拡張計画には無いようだ。
- ・大規模拡張と言っても、今のままでの国立公園編入では合意が難しいと思われる。
- ・山岳関係者が国立昇格ありきでなければ、一気に国立昇格ではなく、北秋田市単独の森吉山は国定公園の階段を踏んでからでもよいのではないか。

※ 以上、津谷市長との意見交換は有意義な内容で理解を深めることができました。

森吉山の国定・国立公園選択の考察

- ・森吉山県立自然公園は、指定55年を経て、宿泊キャパと温泉資源の優劣を除けば、公園インフラの充実に加え国定公園の選定要素を凌ぐ傑出した自然環境を有している。
- ・国定・国立公園の区分に関わらず、財政関係は自然公園等整備事業費に対する交付金の割合は国定45%で国立50%。国際観光旅客税事業の対象にもなる。固定資産税の軽減(特別保護地区・第一種特別地域など)措置がある。誘客関係も環境省から国定・国立公園とあわせて国内外にプロモーションが行われる等、国定・国立公園に大差はない。森吉山昇格は、自然公園整備等交付金の算定や質の高い利用の増進策をもって独立峰森吉山ブランド化向上への好機である。
- ・十和田八幡平国立公園は指定87年を経て、十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山、酸ヶ湯温泉、八幡平と御所掛・玉川温泉郷、岩手山と松川・網張温泉郷、秋田駒ヶ岳～乳頭山域に連なる乳頭温泉郷等のブランド化した中に温泉施設の集積に劣る森吉山は入り込む余地はない。
- ・十和田八幡平国立公園に編入することは、独立峰森吉山の暖簾を下ろし森吉山の冠名称が消えるということ。冠を捨て、得る果実は何か。を見定めなければならない。自らの旗を捨てた山岳観光地に未来はあるだろうか。
- ・十和田八幡平国立公園の発展的な分割論が燻っている。十和田八甲田国立公園とした場合に、隣接した十和田市や黒石市にとっては大いに歓迎されるものと考えられる。しかし、八幡平の冠を頂く八幡平市があるかぎり、岩手山、秋田駒ヶ岳に田沢湖抱返溪谷、和賀山塊を挟む真昼山地に太平山や森吉山の旗は何処に立て込むか。太平山は単独の国定公園で、真木真昼と田沢湖抱返溪谷で国定公園なのか。歴史的、文化的、経済的交流、山の形成史や連続性など、自己主張満載の名峰と湖をどのように連ねるのか。この合意は簡単ではない。

- ・八幡平と形成史を共にするとされる森吉山域が、八幡平森吉山国立公園という名称になるとすれば一考の価値はあるが、この名称の合意はさらに困難であろう。
- ・故に、私たちは30年来の念願である森吉山の新規国立公園昇格を先に進め、環境省の拡張調査区域を更なる森吉山国立公園の拡張地域とすることを望んでいるものである。
- ・森吉山に限らず、和賀山塊や真昼山地・田沢湖等を含めて、大規模拡張地域に組入れるためには、十和田八幡平国立公園の発展的な分割と円満な合意が前提である。新規国立公園のフラッグをどの山域に掲げるべきか、それは将来の世代に託したい。